

案

平成31年2月22日

能代市長 齊藤 滋 宣 様

能代市中心市街地活性化推進協議会
会長 福田 幸一

能代市中心市街地活性化推進協議会提言

能代市中心市街地活性化推進協議会では、第2期能代市中心市街地活性化ビジョン及び中心市街地活性化計画の策定に向け、第1期中心市街地活性化後期計画に掲げる事業の効果等の検証、現在の課題の抽出、今後の活性化に向けた取り組みの方向性の検討を進めてきました。

議論の中では、「中心市街地活性化につながる取り組みは様々に実施されているが、市民全体にはあまり浸透していない。取り組みの状況やその効果が市民に分かりやすく伝わり、活性化を実感できるような「見える化」が必要である」「多くの人たちは目に見える変化等を求めているのではないか」「事業者の意識改革や、まちを元気にする取り組みが必要である」との意見が出されました。

こうした結果を踏まえ、計画の策定や実行段階において、重要な視点を次のとおり提言します。

記

- 1 中心市街地活性化に向けた取り組みやその成果が市民にわかりやすく伝わり、中心市街地内に住んでいる人にも、住んでいない人にも、街なかのにぎわいや魅力が「見える」「実感できる」ことが重要であるとの議論がありました。

市民が商店街活動やまちづくりに関わる活動等に興味・関心を持ち、中心市街地のファンになってくれることを目指して、街なかの元気を発信する取り組みをさらに強化していくことが重要です。

- 2 中心市街地の活性化に向け、商店街、事業者、市民団体、行政等の様々な主体が取り組みを進めています。これらが連携・協力することで、小さな波がうねりをおこし大きな波となり、その波及効果がまちの姿の変化につながっていきます。

これを目指して、各団体が相互に連携・協働して取り組みを進めることが重要です。

- 3 中心市街地活性化に向けた施策がどの程度効果を上げているかしっかり検証し、必要に応じて、積極的に改善をしていくことが必要であるとの議論がありました。

計画に定めた検証指標をもとに中心市街地活性化推進協議会を継続的に開催して事業効果と計画全体の進捗を確認するとともに、事業の改善や新たな取り組みの方向性等について検討しながら計画を進行していくことが重要です。